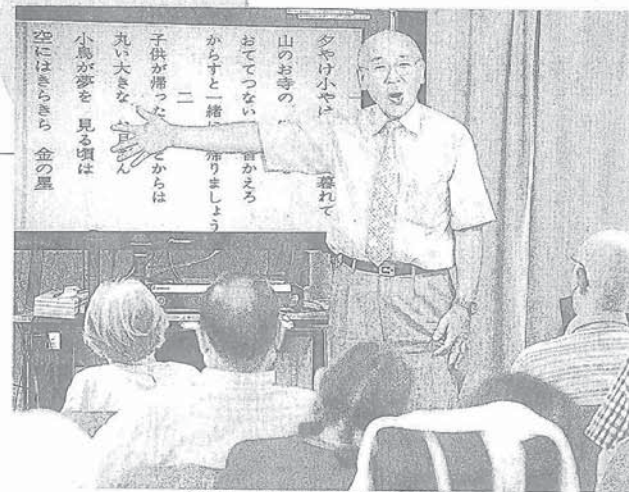


生き方を見つめて

老人ホームを開設した元鉄鋼マン 岡崎公一郎さん(63)



老人ホームの入居者らと唱歌を歌う
岡崎公一郎さん＝横浜市青葉区で

「夕焼け小焼けで日が暮れて」
横浜市青葉区の有料老人ホーム「びあはーと藤が丘」。「夕焼け小やけ」を歌う入居者前に、スライドの歌詞を指し示すのは、新日鉄を早期退職して十一年前にホームを開設した岡崎公一郎さんだ。スライドに映された自作の歌詞集は愛唱歌、歌謡曲、外国民謡など千曲を収録。ギター、ピアノ演奏もこなす。

八十を超える資格を持つ「資格王」。会社勤めで取得した機械・電気系統の資格から花火打ち上げ、ケアマネジャー、小型船舶、大型二種など全種の自動車免許と幅広い。

施設には技術を生かした「製品」の数々が並ぶ。電気を消費するエアコンは、フロアの照明が消えると停止。入居者が歩くとき自然に照明がつき、モニターで転倒しないよう見守

壮春グラフィティ

る。いずれも自ら秋葉原で材料を手に入れ作った。コストは外注の十分の一。省エネや雑務軽減にもなる。「実験の種は尽きない。昨日と同じ明日はないから常に「明日何してやろう」と考えている」。その成果か、ほぼ100%の入居率を維持している。

北九州市生まれ。大学卒業後新日鉄に入社し、設備関連の仕事に就いた。「何でも売れ、不況なんて来ないと思った」。

しかし四十歳代でバブル崩壊。出向で不本意な職に就く先輩の無念を目にし、第二の人生を考えた。

折しも介護保険制度が具体化。団塊世代の行く末に不安を抱き、介護に興味を抱いた。同じく一人暮らしの高齢の母親の生活が困難に。「施設は遠く不便。うは捨て山みたい」と語る母親に「理想の施設を」と誓い立ったが一九九九年に他界。

技術生かした快適施設

「生前の希望をかなえたい。友人が訪れやすく快適に過ごせる場所」と開設準備を進めた。

業界未経験で銀行の融資は受けられない。私財や早期退職増額金を投じて二〇〇九年春、駅から徒歩一分の場所に無借金でホームを開設した。設立から十一年。入居者との別れを幾度も体験した。長期の入居者のみどり希望も増えた。「どうしても立きます。両親に親孝行できなかつたから、みんなを親だと思ってきた」挑戦は尽きない。「医師になって安心を与えたい」と〇八年、六十歳で東海大学医学部を受験し、一次試験に合格。二次試験で「当時百歳近くで現役医師の」日野原重明先生を見て「と力説したが不合格だった。今後は社会福祉士に挑戦したい」と意気込む。

(安食美智子)

きょうの紙面

大震災関連ニュース

- 6 復興交付金1.9兆円
- 26 27 お手盛りと批判
- 28 半数は勤務できず
- 29 被害の象徴解体へ

一般ニュース

- 放送&芸能 17
- 国立音大にジャズ専修
- 生き方を見つめて 21
- 早期退職でホーム開設



老人ホームの入居者らと古典を勉強する岡崎公一郎さん。

- スポーツ 22
- 琴奨菊が関脇対決制す
- 社会 29
- 両替機の紙幣なくなる
- T発 30
- 銀座高架下「領土争い」

- | | | | |
|-------|-----|----------|----|
| 社説・将棋 | 5 | クッパイマイラブ | 21 |
| 国際 | 81 | スポーツ | 22 |
| 証券 | 101 | 地域 | 24 |
| 暮らし | 202 | 親鸞 | 30 |

テレビ・ラジオ 15-18